



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第40号

2007.5.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつけています。

もくじ

おしらせ

- ー開館しました
- ーグラフ誌「すこぶる広島」に紹介

活動報告

- ー山焼き後の雲月山観察会
- ーカスミサンショウウオの産卵調査

観察会案内

- ー大潰山の春植物観察会
- ーサクラソウのお花見会
- ーブナ林のバードウォッチング
- ー畳山の植物観察会

おしらせ

● 開館しました

高原の自然館は4月25日より開館しました。今シーズンも、みなさんの自然観察拠点としてお手伝いできるよう、スタッフ一同がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

● グラフ誌「すこぶる広島」に紹介されました

広島県が発行するグラフ誌「すこぶる広島」第66号に高原の自然館が紹介されています。広島県内の各書店で取り扱っているそうですので、見かけたら手に取ってみてください。

ちなみに、表紙は西中国山地自然史研究会の活動でしばしば記録係をしてくださるプロカメラマン荒木則行さんの写真だそうです。

【すこぶる広島】

<http://www.pref.hiroshima.jp/sukoburu/new/index.html>

【荒木写真事務所】 <http://photoaraki.com/>

今後の観察会予定

- | | | | |
|--------|-------------------------|---------|-----------------------|
| 6月 10日 | 龍頭山の野鳥観察会 | 17日 | 霧ヶ谷湿原の植生調査 |
| 23日 | 霧ヶ谷湿原の植物と昆虫観察会 | 10月 20日 | キノコの観察会 |
| 24日 | 霧ヶ谷湿原実験地の植生調査 | 21日 | 寒曳山の植物観察会 |
| 7月 8日 | 八幡湿原の植物と昆虫観察会 | 11月 11日 | 紅葉の山でゴギの産卵観察会 |
| 29日 | 千町原草原の保全活動 | 23日 | 千町原草原の保全活動 |
| 8月 4日 | 千代田のオオサンショウウオと水辺の生き物観察会 | 12月 2日 | 八幡高原の冬鳥&越冬する樹木の姿 |
| 5日 | 世界最南限のカワシンジュガイ観察会 | 9日 | 冬の工作「小鳥を呼ぼう、かんじきで歩こう」 |
| 11日 | 龍頭山の昆虫観察会 | 1月 20日 | アニマルトラッキング |
| 9月 8日 | 雲月山の植物観察会 | 2月 17日 | スノートレッキング |
| | | 3月 9日 | スノートレッキング |

観 察 会 報 告

● 山焼き後の雲月山観察会

開催日時：2007年4月22日（日）9:30

講師：佐久間智子

山焼きから8日後の雲月山に8名の参加者が集まり、雨が降りしきる中、観察会がスタートしました。今回の講師は佐久間先生です。山の際から、焼け跡に残った植物をじっくりと目をこらして見たり、触ってみたりしながら、思った以上にたくさんの種類を見つけることができました。焼いた後に花を咲かせていたたくさんのショウジョウバカマ、葉をだしていたフキやススキなど、植物の生命力の強さには驚きました。また、道沿いでも多くの植物を観察しました。種類がたくさんあるためなかなか覚えづらいスミレも、実際の花や葉を見て、名前を教えてくださいながら、何種類か覚えることができました。確認できたのは、タチツボスミレ、コタチツボスミレ、ニオイタチツボスミレ、シハイスミレ、フモトスミレです。他にもイカリソウ、センボンヤリ、タネツケバナ、ササなどが花をさかせていました。植物だけでなく、道を横切っていたサワガニ、真っ黒でユーモラスな姿のヒキガエルの子どもを見つけ、ここでも雲月山の豊かな自然の生命力を感じることができました。山焼き跡の黒く燃えたところが、これからどのように変化するかを観察することも雲月山を歩く時の楽しみになりそうです。[こ]



ヤナギは「サイコクキツネヤナギかな？」という意見。



炎が駆け上ったススキ地帯を歩いてみた。フキ、ススキなどが芽を出していた。



霧の中に集合し、佐久間先生の話聞いた。



東屋で一休み。



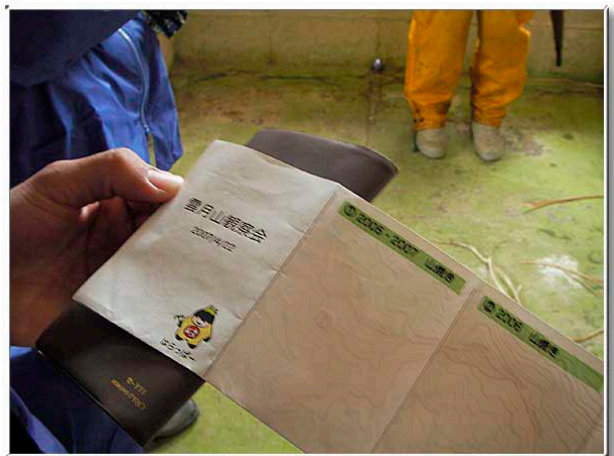
今年もショウジョウバカマが花を咲かせていた。



道路で見つけたサワガニ。



掘り起こしてみると、葉の痕がたくさん付いた太い茎が現れた。ここに栄養を貯めているのか？



出発地点にあった建物の中で、今日のおさらい。佐久間先生お手製の記録帳には、各自、帰ってからまとめをすることにした。

【みなさんの印象に残った物】

「ショウジョウバカマが元気に咲いていました。」「たくさんのスマイル」「サワガニ、芽がたくさん出ていたこと。いろんな環境にいろんなものがあったこと。」「センボンヤリの春の花」

【参加したみなさんの感想】

「大雨の中、熱心に参加されよかったです。山焼き後の観察会は初でしたが、自然の回復力の強さに驚きました。」「見比べて種類がいろいろわかりよかったです。」「いろいろお騒がせしました。」「雨だったのは残念でしたが、春の雲月はあまり来ていないので、よかったです。」「少人数でゆったりのにんびりできよかったです。」「雨の中でしたが、山焼きのあとをじっくり見れてよかったです。秋も楽しみです。」



作業道で小さなヒキガエルを見つけた。どこからやってきたのだろうか？

観 察 会 報 告

● カスミサンショウウオの産卵調査

開催日時：2007年4月28日(土) 9:30

講師：内藤順一

はじめに、集まった20名の参加者のみなさんと一緒に自然館内の展示を見ながらお話を聞きました。講師の内藤先生より、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、ブチサンショウウオ、カスミサンショウウオ、オオサンショウウオの生態や生息環境の違いなどの解説がありました。今回調査するカスミサンショウウオは、止水性の湿地に生息し、低地型、高地型と分けられ、芸北では標高が高いのにもかかわらず、尾に黄条がある低地型の個体が生息しているとの事でした。

その後、二川キャンプ場に移動しました。調査方法を教えてもらい、4班に別れ、班長さんについて調査開始です！野外での観察会にはもってこいの晴天でした。私は道路より西側の調査をする3班になりました。生息していそうな水がたまったところを目をこらしてみたり、手を差しこみ卵塊があるかチェックしました。

すぐには見つかりませんでした。が、「あつたー！！」という子どもの声にみんなが集まり、卵塊を手にとりじっくり観察しました。すでに幼生の形になっている胚を見て、「かわいいね」という声があがっていました。卵の数を数え、卵塊を元通りにかえし、無事ふ化することを願いました。何か所かで卵塊は発見しましたが、成体の姿は見あたりませんでした。

しばらく歩くと、道路沿いの側溝で、おびただしい数の卵塊を発見しました。側溝の水深は深く、ふつつなら産卵する環境ではないことから、成体なんらかの理由で側溝に落ち、そこで産卵せざるを得ない状況になったのだろうという予想がなされました。ここでは卵塊が44個、成体が3匹見つかりました。

最後にキャンプ場に帰り、各班の報告を聞き、まとめをしました。カスミサンショウウオ以外にも、コオイムシ、アカハライモリ、ヤマアカガエルの卵やニホンヒキガエルの姿も見ることができました。今回の観察会では、子どもの参加者が多く、実際に自分たちで歩いてさがし、見て触れることができ、楽しそうに、そして興

味深そうに卵塊や成体を観察していた姿が印象的でした。[こ]



カスミサンショウウオの生息環境と産卵環境について説明を聞いた。大人も子どもも真剣？



卵囊の形をしっかりと覚えて、班ごとに散開。



それぞれの持ち場で調査の開始。早速卵塊が見つかった。



別の場所では成体も見つかった。



子供達も感想を発表した。



オオコオイムシは、雄が卵を背負って守る。

【みなさんの印象に残った物】

「サンショウウオ」「コオイムシがたくさんいた。(2)」「カスミサンショウウオの中にいる赤ちゃん.」「卵胞の発見」「ますの中にたくさんの卵塊があったこと。(2)」「卵がたくさんあり、すでに発生しているものもあり驚いた.」「卵を実際に探して触れたこと。(2)」「ますの中の大きな卵塊」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「うれしかった」「子どもがたくさん来ていて楽しかったです.」「サンショウウオにさわってよかった.」「湿地に戻るとサンショウウオが増えるでしょう.」「天気も良くて気持ちよかったです.」「実際に見れてよかった.」「自然の中の多くの命。大切にしたいと再確認しました.」「久しぶりの成体が見れてうれしかったです.」「時間を忘れ、歩き回りました.」「子どもが小さかったので、移動が大変でした。子は大喜びでしたが、大人は疲れました.」「子どもも楽しんで参加できて良かったです.」「内藤先生の説明が熱心で良かったです.」「子どもが多いのがいい.」「ますのなかにたまってしまった卵をどうにかしたいですね.」「単なる湿地としか見れていませんでしたが、驚くほど小さな生物がいて驚きました.」



再び、二川キャンプ場駐車場に集合し、各々の調査結果を報告しあった。

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

●大潰山の春植物観察会

開催日時：2007年5月3日(木) 9:30
集合場所：大佐スキー場駐車場
講師：佐久間智子
準備：基本セット、弁当
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

炭窯や薪を採った跡が残る大潰山に登りながら植物の観察をします。人の手が加わったかつての里山は放置され、今では「二次遷移」と呼ばれる植物の移り変わりが進んでいます。大潰山ではスミレやツツジの仲間を中心に、様々な里山植物が見られます。特に山頂部のツツジ群落は見事です。

●サクラソウのお花見会

開催日時：2007年5月6日(日) 9:30
集合場所：美和東文化センター
講師：サクラソウを育てる会
準備：基本セット、弁当、双眼鏡
定員数：30名
参加費：無料

美和地区で進められているサクラソウ保全の取り組みについてお話を聞きながら、個性豊かなサクラソウの花を観察します。去年は地域と小学校が協同で、自生地環境整備活動をしたそうです。サクラソウは小学校の教科書にも載っています。子供達には、ぜひ実物を見せてあげてください。(※美和のサクラソウは北広島町の文化財として指定出願中です。)

●ブナ林のバードウォッチング

開催日時：2007年5月13日(日) 5:30
集合場所：苅尾山雪霊水前
講師：上野吉雄
準備：基本セット、双眼鏡、フィールドスコープ
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

早朝のブナ林で野鳥の観察をします。高原の自然館のキャラクターにもなっているアカショウビンをはじめ、オオルリ、コルリ、アオバト、ミソサザイなど、朝のブナ林は賑やかです。この日だけはちょっと早起きをして、観察会に出かけませんか？

●壘山の植物観察会

開催日時：2007年6月3日(日) 9:30
集合場所：瑞穂ハイランドスキー場(予定)
講師：斎藤隆登、佐久間智子
準備：基本セット、弁当
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

瑞穂、大朝、芸北の境にある壘山に登りながら植物の観察をします。壘山は明治時代まではたたら製鉄のために砂を採る山でした。その掘り跡から流れ出る砂を止めるために、昭和後期に作られた砂防堰堤は、既に埋まっています。今回は瑞穂側から山頂まで登りながら観察をします。

八幡小の児童たちと一緒に、掛頭山に登りました。この山も昔は草原だったそうですが、今、八幡側はすっかり林になっています。山頂に立つと、雄鹿原の集落は良く見えるのですが、八幡の方は登る途中に林の間からチラリと見えるだけです。かつておじいさん・おばあさんが見た景色と、今日、こども園や小学校に入っはじめての遠足の子たちが見る景色とが違うことを思うと、不思議な想いがしました。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info